

プログラムの概要

応用生物学講座では、「新しい品種を作る」、「作物を病害虫から守る」、「昆虫の生態や生理を解析して利用する」、「雑草を制御する」などを教育研究することで、農学に関する重要問題を解決し、人間生活の発展に寄与することを目指している。そのために、植物育種学、植物病理学、応用昆虫学、昆虫機能利用学、雑草学、分子細胞生物学の分野において、生物資源の有する機能の効率的利用や潜在能力の発掘・未利用資源の有効化に関する基礎・応用研究を進めている。

修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

所定の単位を修め、以下の能力（学修・教育目標）を身につけた者に対して学位を授与する。

- (A) より豊かな人間社会の構築に貢献できる知性、幅広い視野に立った深い学識、研究者倫理を有する。
- (B) 農学分野で必要とされる高い情報収集・分析・判断能力を有する。
- (C) 応用生物学分野の進展や、関連産業の需要に対応しうる高度な専門知識を有する。
- (D) 応用生物学分野における研究能力、又は高度な専門性を要する職業に必要な技術力を有する。

履修条件（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

- (1) 農業やバイオサイエンスに関する高度な知識や技術を修得して、地域社会や国際社会に貢献しようとする夢と情熱を持つ人
- (2) 自ら思考して行動する為に必要な基礎学力、専門知識、基礎英語力、判断力を有する人
- (3) 応用生物学に興味を持ち、農学に関する重要問題の解決や人間生活の発展に寄与するための高い志を有する人
- (4) 生命現象の本質の理解、最先端技術や知識の修得に高い意欲のある人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般的な英語力、及び専門分野の英語力を備えているかどうかを重視します。
- (2) 専門分野の基礎的な知識を備えているかどうかを重視します。
- (3) 専門分野の知識や技術の修得に対する意欲、主体的な姿勢、表現力、コミュニケーション能力も評価の対象とします。

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

生物資源の有する機能の効率的利用や潜在能力の発掘・未利用資源の有効利用を行うため、1・2年次を通じて応用生物学分野の幅広い専門知識とプレゼンテーション能力を修得すると共に、植物・昆虫・微生物に関して、遺伝子・細胞・個体・個体群・地域レベルの基礎・応用研究を展開する。特に、修士研究においては、問題発見、分析、解決策の提案、計画立案、実験の遂行、実験結果の解析、実験結果の考察、修士論文の執筆という一連の研究を完結し、高度専門職業人として十分な能力を身につける。

生物生産科学専攻 応用生物学講座 カリキュラムツリー

